



# 根室管内の草地雑草とその影響

## 1 植生の現状 ～かなりしぶといシバムギとリード～

根室管内の草地371ヵ所の植生調査を実施した結果、雑草（裸地含む）割合が40%以上を占め、植生が良くないことが確認されました（図1）。

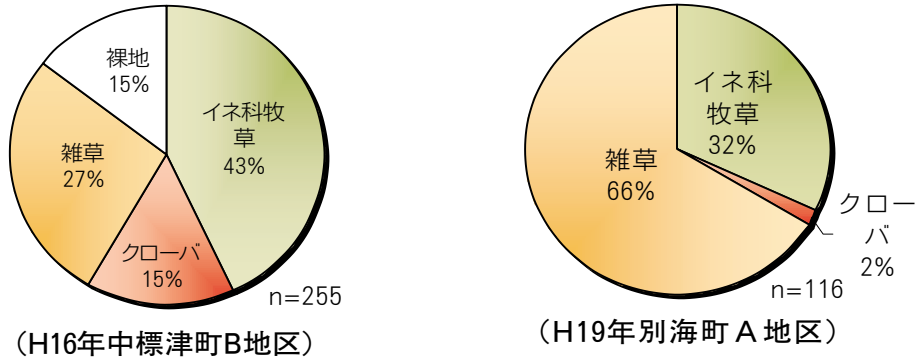


図1 根室管内の植生調査結果（普及センター調べ）

## 2 雑草の特性とサイレージ品質への影響

根室管内のイネ科雑草はシバムギとリードカナリーグラスが多く見られます。どちらも地下茎で増殖するため、防除の難しい雑草です。

### (1) シバムギの特徴

- 嗜好性が悪く、サイレージの発酵品質も悪くなる（pHが高くなる）
- 出穂前はチモシーとの判別困難で、茎が細く倒伏しやすい
- 肥料の吸収性が高く、堆肥やスラリーの多施用は硝酸態窒素含量が高くなる（図2）

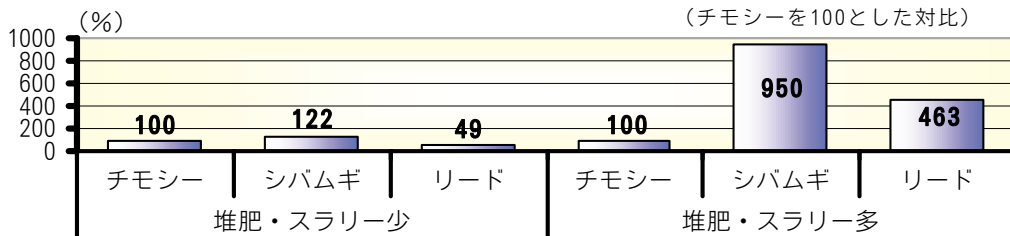


図2 硝酸態窒素含量（牧草と園芸第54巻より）

### (2) リードカナリーグラスの特徴

- 出穂後は茎部の木質化が急速に進み、嗜好性が大幅に低下する
- 茎が太く、倒れにくいが高消化性繊維の割合が多い
- 湿地で生育がよいが、アルカロイド含量が多い
- 可溶性炭水化物（主に糖類）の割合が少ない

### (3) 雑草の影響

これらの特徴から、雑草の多い原料草はサイレージ発酵に必要な糖類が少なく、嗜好性が劣ります。また、サイレージの分析値がマメ科の少ない草地にもかかわらず、蛋白質含量が極めて高い時は、シバムギが優先している可能性が高いので注意が必要です。

- 乳酸発酵しづらい（pHが高くなる）
- アンモニア態窒素割合（VBN/TN）が高くなる